

2001年未来基金

合同発表会中間報告



東海スクールネット研究会
インターネット教育利用研究会北海道
南島スクールネット研究会

日本・アメリカの 高校生によるオンライン・パブリッシング

自律的な地域分散プロジェクトの統合と、国際共同作業の試み

東日本電信電話株式会社
18階会議室
2000.08.26

北海道旭川凌雲高等学校
奥村 稔
okumura@ryoun.ed.jp

プロジェクトのこれまでの経緯

- 第1期 1995～1996年
 - 自律性を養うためには
- 第2期 1997～1998年
 - アクティビティ強化のために
- 第3期 1998年～1999年
 - 持続性のある活動のために
- 第4期 1999年～2000年
 - 地域分散・広域統合を掲げて

第1期 1995～1996年

- 自律性を養うためには
 - 高校教育における生徒の自律的情報交換に関する実践研究
- ネットワーク・リーダーズ・キャンプ
 - 情報基盤センター (SFC内)
/ 富士通大町ビル

第2期 1997～1998年

- アクティビティ強化のために
 - 地域分散・広域統合
- 高校生の集いイン滝高校
 - メディア・コミュニケーション・センター

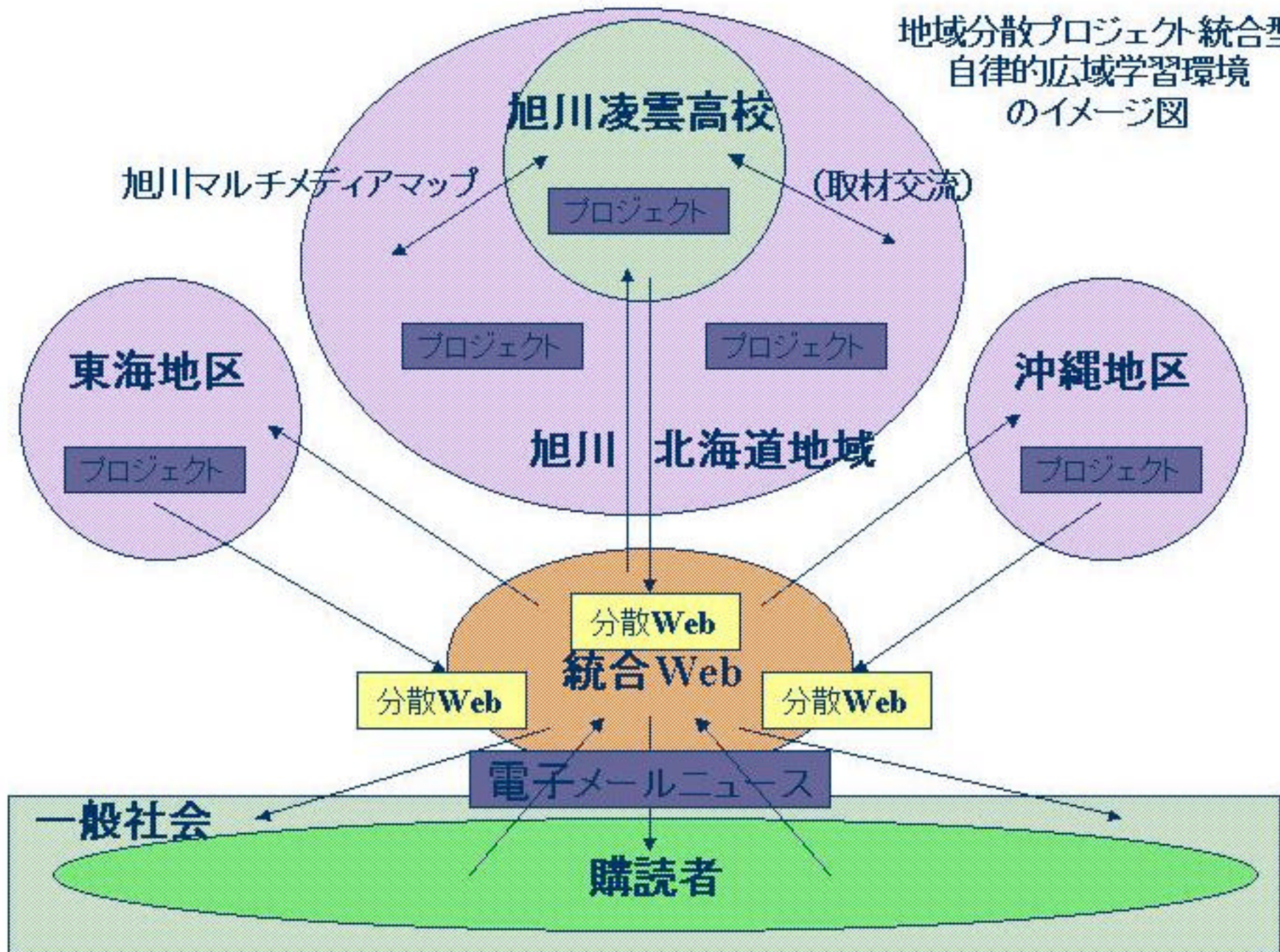
第3期 1998～1999年

- 持続性のある活動のために
 - 「共有」「蓄積」「継承」
- ネットワーク・ニュース配信
 - 特定できる人への配信
- 高校生の集いイン稚内
 - 稚内北星短期大学(現 稚内北星大学)
- 高校生の集いイン南明時
 - 広域統合も地域分散で動かす

第4期 1999～2000年

- 地域分散・広域統合を掲げて
 - 『インターネットと教育シンポジウム2000
イン沖縄』に向けて
- 「海外も一つの地域」
 - アメリカの学習活動を地域分散プロジェクトとみなす
 - 広域統合 オンライン・パブリッシング

地域分散プロジェクト統合型
自律的広域学習環境
のイメージ図



これまでの成果

- 生徒と教師の
協働作業

- 方向性模索

- 軌道修正、プロセスの積重ね

- 課外活動としての実践

- 総合的な学習の実践

- 課題を明らかにし、解決の手段を考え、共同で事に当たる



課題

- 学校相互の連携
 - スケジュール調整の難しさ
- 生徒・教師双方のキャパシティ
 - 課外活動としての限界
- 個人的な活動から学校としての活動へ
 - 無理が通らぬジレンマ



今後に向けて

• 2つのベクトル

1 地域展開

– 地域の人に

開いたプロジェクト

– 学校地域コミュニティ 学習環境

2 国際展開

– カリキュラムと課外活動

– 言葉の違いの克服 動機付け

